



## 今日、今を大切に

校長 赤松 弘一

何度か播磨平野にも雪が積もりましたが、厳しい冬もようやく終わりを告げようとしています。今日の日の出は午前6時44分、日の入りは午後5時43分、冬至から比べると昼の時間は90分も長くなっています。陽射しも強くなり、まさに光の春到来です。裸の樹々も春に向けて新芽を準備をしています。校門の桜はつぼみを膨らませています。

季節は当たり前に移ろい、また一日が普通に始まる。私たちはそんな日常を過ごしていますが、明日という日は何も決まってないのだということ、6日に起こったトルコの大地震で強く思いました。それは、阪神淡路の大地震や、東日本地震津波の時にも思ったことですが、時間と共に思いが薄れていきました。ごくありふれた一日を過ごしていた人、結婚式や出産など人生の特別な日を迎えていた人、様々な暮らしをしていた数万人の人が命を失い、また数千万人の人が生活を一変させられました。

明日のことは全く予期できません。「あの人に伝えるのは明日にしよう」「来週は久しぶりに昔の友人と会う」「来年こそ行きたかった旅に出よう」それらは実現できるかどうかは不確実なのです。



皆さんは日々学校で様々な学習をし、生きていく上での必要な知識や技能、力をつけるために努力しています。目指す高校に入るため、なりたい自分に近付くためにいろんなことを辛抱して努力しています。もしかしたら「明日はどうなるか分からないから、努力したって無駄」「今を楽しむ方がもっと大切」そんなことが頭に浮かぶことがあるかもしれません。確かに今という時間は、将来のために犠牲にするためにあるのではないです。かといって、今という時間をただ消費して楽しむことが充実した生き方なのでしょうか。

中学生の君たちは人生の中で最も激しい成長の時期にいます。若い今しか感じられないことや、伸ばせない力があります。今やっておくべきことは何か、明日がある無しに関係なく、今をごまかさずにしっかり生きること。その積み重ねが充実した生き方になり、たとえ途中で終わったとしても後悔のない人生になると思います。

昔のカメラはネガフィルムを装填して撮影していました。デジタルカメラと違い、撮れる枚数が24枚とか36枚とか決まっていた。また、その場で撮ったものを見たり、消去したりすることはできませんでした。だから1枚1枚を大切に真剣に撮っていました。私たちの人生もよく似ています。残されたフィルムがあと何枚かを知らずに撮影しているようなものです。しかし残りの枚数にこだわって自分の行動を縛ってしまうのも愚かなことです。私たちにできることは、これが最後の1枚だという思いで、悔いのない素晴らしい写真を撮ろうとすることです。

日々最善を尽くして生きたいと思いながら、今日もシャッターチャンス逃し、得るところなく終わってしまうのが私の日常ですが、今日1日だけに注力して生き切る。先延ばししない。そんな日々を積み重ねて充実した生き方をしたいものです。